

地域の経済動向(令和6年1-3月期)
《道央(空知・石狩・後志・胆振・日高)地域》

1 経済動向に係る企業等の声(1~3月期)

【建設業】

- ・ 工事受注は順調に回復している。資材価格の高騰が続いているが、工事施工代金に転嫁できているため、今期はコロナ禍前に近いところまで回復する見込みである。(建設業)
- ・ 元請けの経営状況によって売上が不安定になりやすい。(建設業)
- ・ 新幹線関連の受注が利益の大部分を占めており、近年の業績はプラスで推移。(建設業)
- ・ 自社も協力会社も人手不足で仕事ができなくなっている。(建設業)
- ・ 人手不足は深刻で、従業員は60代が中心。(建設業)
- ・ ニセコ地区の人件費が上昇しているため、自社の人件費にも影響が出ている。特に冬期の人件費単価が高すぎる。(建設業)
- ・ 建設業の3Kイメージを払拭するため、子供向け職業体験イベントを実施。(建設業)
- ・ 人材確保のため、社内でICTを活用しつつ、建設業及び自社のイメージアップのための対外的PRも行っている。(建設業)
- ・ 人手不足対策として、繁忙期の異なる業種間のマッチングなど、人材の流動化の仕組みがあるといふ。(建設業)

【製造業】

- ・ 今後、自動車関連の需要は回復を期待できるが、石炭火力発電や住宅需要は長期的に減少すると見込んでいる。(製造業)
- ・ 家具市場はコロナ禍で伸長したが、その後は、ニセコや富良野などの宿泊施設の新規需要を取り込めず低迷している。原材料の木材は主に欧米から輸入しているが、価格が高騰しているため、直近で製品価格を2回、それぞれ10%程度値上げしたが、通常だと発生する駆け込み需要も発生しなかった。(木材・木製品製造業)
- ・ 観光需要の回復でパッケージ・ラベル印刷増を見込んでいるが、チラシやポスターなどの商業印刷物はWEBやSNSに移行しており、今後も減少が見込まれる。(印刷業)
- ・ 赤潮等の影響は続いており、秋鮭の漁獲量は前年度の半分以下に低下するなど厳しい状況となっている。(水産加工業)
- ・ 電気料金は4割、重油は2倍程値上がりしていることから、製品も値上げしているが、完全には価格転嫁できない。(製造業)
- ・ 工場従事者の平均年齢は64歳だが、人手が足りないため、定年は定めず働ける間は雇用継続している。(水産加工業)
- ・ 新卒者の採用がゼロとなり、今年は創業以来、初めて入社式ができなかった。(製造業)
- ・ 人手不足解消のため自動化を検討中だが、多品種小ロットでは自動化が困難なので、製造品種の厳選も検討している。(製造業)

【卸売・小売業】

- ・ 建築用塗料や断熱材など資材の高騰で住宅建設コストが一気に上がり、消費者マインドが低迷。(建築材料卸売業)




【運輸業】

- ・ ラピダス工場建設は建設業や運輸業に良い影響が出ている。
また、苫東地区には、データセンターやウイスキー蒸留所なども立地予定で、今後更なる立地に期待している。(商工会議所)

【サービス業】

- ・ ホテル事業は売上が対前年比で1割増となり、コロナ禍前と比べて8割回復した。(宿泊業)
- ・ 単価の高い中国人観光客が戻ってこないため、売上はコロナ禍前に比べると6～7割程度。(飲食店)
- ・ 宿泊やレストラン、体験施設の売上及び利用者数が増加している一方で、宴会は、令和元年同期比で売上が4割、利用者数が3割とコロナ禍が明けても回復がみられない。(宿泊・飲食業)
- ・ 携帯事業は順調で、昨年度と比較して売上は同程度で推移している。飲食事業は、インバウンドや国内団体客が増加しており、売上は昨年度と比較して増加している。今後も売上は順調に伸びていくと考えている。(情報通信業)
- ・ 売上は前年より多少上がっているが、清掃道具やガソリン代、人件費等の上昇もあり、利益はほとんど伸びていない。(廃棄物処理業)
- ・ 補助金を使って新型の空き缶プレス機を導入した。これまでのものは熟練者しか扱えなかったが、新型は誰でも操作が可能となったことで、業務の効率化が図られた。(廃棄物処理業)
- ・ 札幌のホテルが値上げをしているため、町に観光客が流れてくるようになってきている。(商工会)
- ・ コロナ禍後の観光客の回復に付いて行けず、ホテルやタクシーは人手不足などの問題が発生している。(商工会)
- ・ リゾート関係事業者の時給が高いため、他業種も時給を上げざるを得ない状況だが、経営に大きな影響があるため対応できていない。(商工会)

2 道内金融機関から見た地域景況感(1-3月期)

































































①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
非常に好調	好調	やや好調	普通	やや低調	低調	非常に低調
						

【直近の景況感】

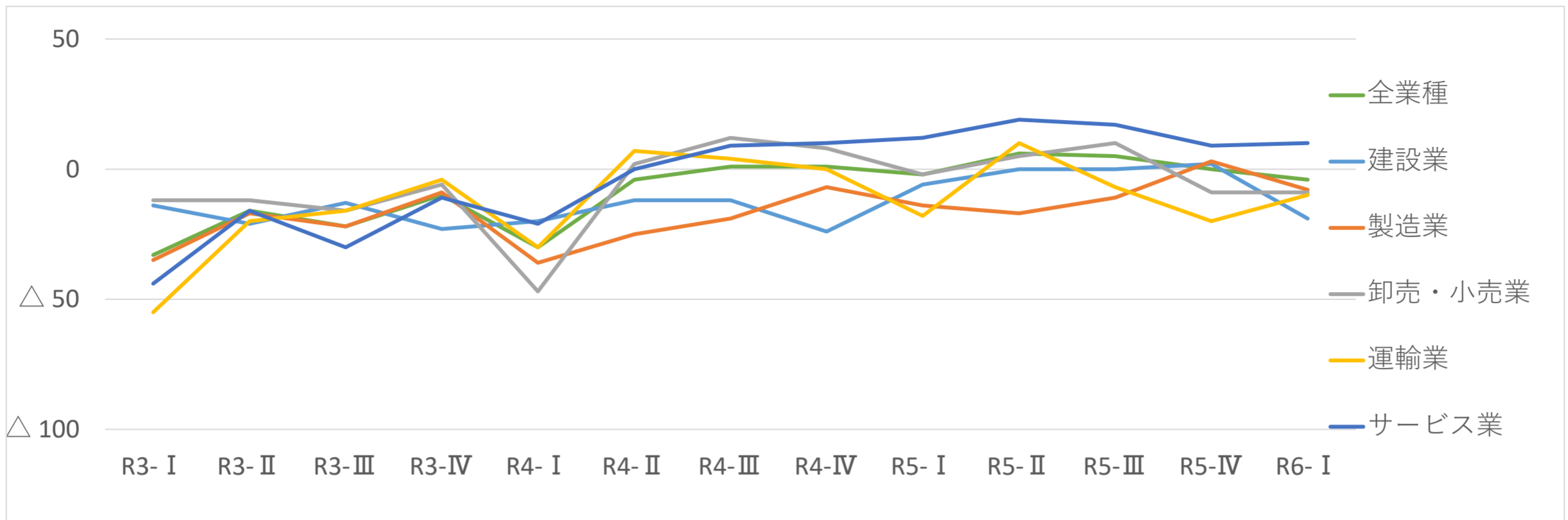
	現在の景況感			判断理由	方向感	次期見通し
	総合	生産動向	消費動向			
北海道信用金庫				今期の景気動向調査では、サービス業で「やや好調」となったが、建設業・不動産業で「普通」、製造業・卸売業・小売業で「やや低調」となり、全体の業況判断DIが2.3となっていることから「普通」と判断した。		次期の業況見通しは、卸売業・建設業・不動産業で「やや好調」となったが、製造業・小売業・サービス業で「普通」となり、全体の業況判断DIが9.9の「普通」となっていることから、現在の景況感「普通」から変わらないと判断した。
空知信用金庫				今期の業況DIは、△17.8と前期より15.6ポイント下降し、業種別に見ると農業で改善、不動産業で横ばいと、この2業種以外の6業種で悪化となった。売上額DI値は2.1と前期比4.8ポイント悪化となり、卸売業、サービス業、建設業及び農業で改善、不動産業が横ばい、それ以外の業種は下降となった。収益DI値は△11.4と前期比3.4ポイント下降し、卸売業、建設業、農業以外の業種は横ばい又は下降している。		次期の予想業況DIは△2.1と前期比15.7ポイントの改善が見込まれる。業種別では、運輸業で横ばいの見通しとする以外、7業種が改善を見込んでいる。また、主要指標は、前年同期比で悪化傾向にあり、依然として、物価や人件費の高騰、人手不足等で先行き不安感を反映したものと思われる。
北空知信用金庫				当金庫の景気動向調査によると、建設業(土木請負)とサービス業(その他)は改善がみられるが、前期改善したサービス業(自動車修理販売関連)は悪化し、製造業、建設業(建築請負)、卸・小売業では依然として後退感が強い。また円安は、米国の利下げ観測が強まっていたが、インフレ再燃懸念から利下げ見直しの可能性もあり、原材料・エネルギーコストの高騰が続いている収益性への影響から、経済活動への積極性や活性化に至っていない。そのため総合景況感では前期調査同様の「低調」と判断した。		サービス業(その他)のみ悪化が見込まれる中、その他の業種は改善又は横ばいすると見込んでいる。全体的なDIも16.6ポイント改善する見通しであることから「上昇傾向」と判断した。
北門信用金庫				売上額判断DI及び収益判断DIが下降し、業況判断DIも低下したことから業況としては「低調」と判断した。製造業で業況が悪化しており、生産動向については「低調」と判断した。消費動向については、サービス業で改善しているが、小売業で悪化しており「やや低調」と判断した。		売上額・収益判断DIが改善する見通しであり、業況は今期より小幅ではあるが上昇する見通し。生産動向は製造業で業況が改善、消費動向については小売業・サービス業は変わらない見通し。
伊達信用金庫				サービス業は、インバウンドが堅調な推移となっており、業況は回復傾向にある。製造業は原材料、光熱費など物価高騰による経営への影響が続いている。建設業は、春先立ち上がりの遅れから、公共、民間工事の受注量が減少傾向、不動産業は例年並みの仲介、管理料を得ており、全体として前期と大きな変化はないことから「普通」と判断した。		業況回復の兆しは見られるが、原材料高騰による収益性圧迫はまだ続く見通しであることから、現時点では「変わらない」と判断した。

苫小牧信用金庫				今期の景気動向調査によると、業況判断指数は「良い」とする企業10.0%に対して、「悪い」とする企業は46.4%、DIは前期から21.6ポイント後退し「△36.4」。不動産業を除くすべての業種で前期比後退となった。前期調査時における次期景況見通しとほぼ同様の結果であるが、後退幅が大きいことから景況感の総合評価は前期の「やや低調」から「低調」と判断した。また、生産動向・消費動向についても、同様の理由から、前期の「やや低調」から「低調」と判断した。		同調査によると、次期については「良い」とする企業18.6%に対して、「悪い」とする企業は27.3%、DIは「△8.7」となった。今期実績に比べ27.7ポイント改善の見通しとなった。前年同期と比較しても改善幅が大きいことから「上昇傾向」と判断した。
室蘭信用金庫				総合のDIは△11となり前期より18ポイントの下降となることから「やや低調」と判断した。生産動向については、卸売業以外が下降し△6となり「やや低調」と判断した。消費動向についてもDIは前期よりマイナス水準へ転じ「やや低調」と判断した。		全業種のDIはマイナス水準見通しであるが全体のDIは2ポイントの上昇。消費動向では上昇傾向、業種別ではサービス業がプラス水準まで上昇見通しであり「変わらない」と判断した。物価、原材料高騰や人手不足、売上の停滞感等、地域経済の業況への影響から厳しい業況が続くことを予想している。
日高信用金庫				今期の業況DIは△31.1と、前期比14.1ポイント下降した。DIは全企業で下降しており「低調」、製造業では秋サケの不漁等で原材料不足により「低調」で、消費動向についても物価高の影響で「低調」と判断した。業種別の業況判断DIは、製造業△25.7(前期△11.4)、建設業△37.5(同△17.1)、卸売業△50.0(同△12.5)、小売業△33.3(同△25.0)、サービス業△20.0(同9.9)となっている。		来期の予想業況判断DIは△15.6と、今期実績比15.5ポイント上昇見通し。業種別に見ても卸売業を除く業種でポイント上昇又は同じであり「上昇傾向」と判断した。

【景況感の推移】

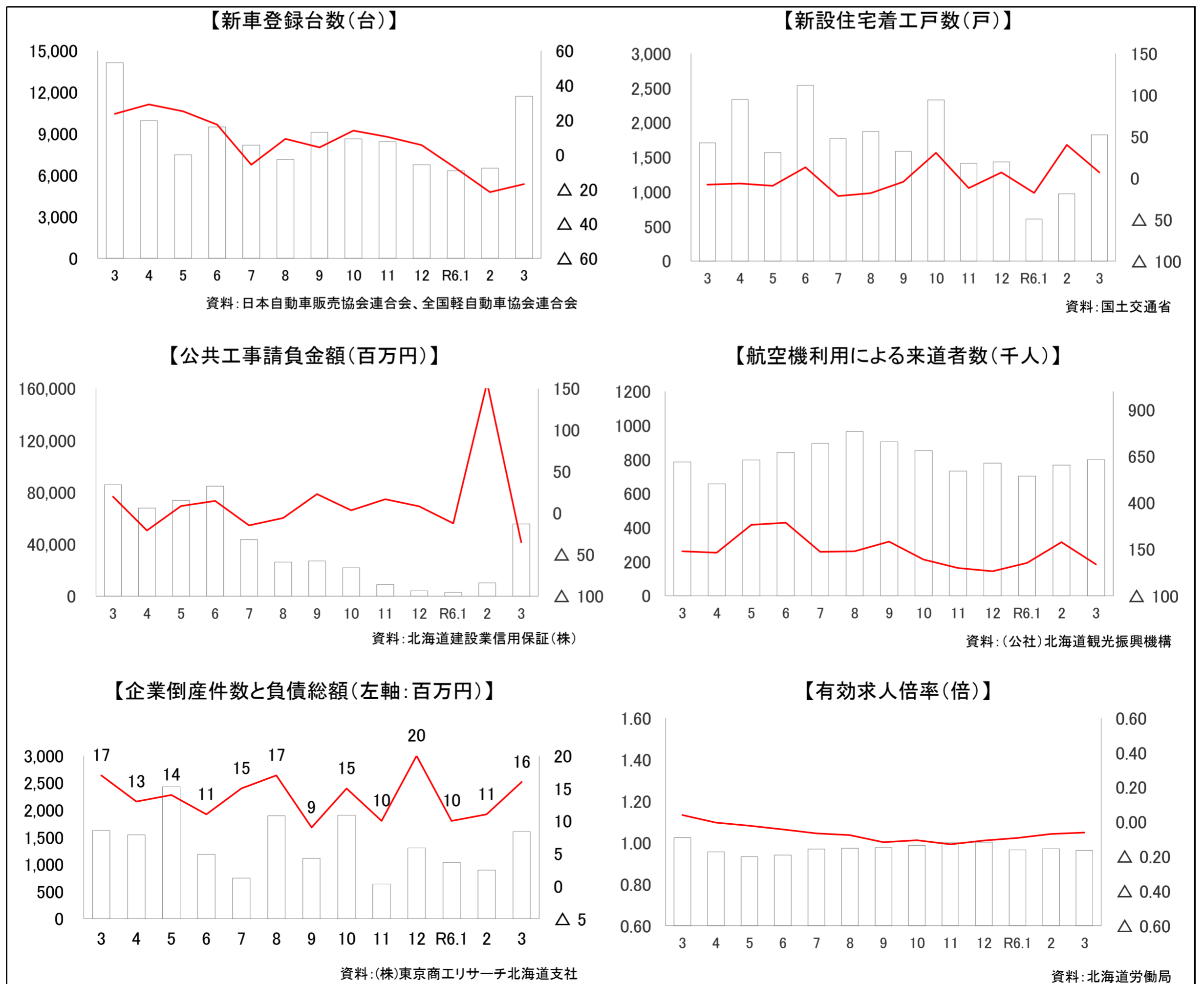
	R4- II	R4- III	R4- IV	R5- I	R5- II	R5- III	R5- IV	R6- I
北海道信用金庫								
空知信用金庫								
北空知信用金庫								
北門信用金庫								
伊達信用金庫								
苫小牧信用金庫								
室蘭信用金庫								
日高信用金庫								

3 業種別の業況感BSI(企業経営者意識調査)



	R3- I	R3- II	R3- III	R3- IV	R4- I	R4- II	R4- III	R4- IV	R5- I	R5- II	R5- III	R5- IV	R6- I
全業種	△ 33	△ 16	△ 22	△ 10	△ 30	△ 4	1	1	△ 2	6	5	0	△ 4
建設業	△ 14	△ 21	△ 13	△ 23	△ 20	△ 12	△ 12	△ 24	△ 6	0	0	2	△ 19
製造業	△ 35	△ 17	△ 22	△ 9	△ 36	△ 25	△ 19	△ 7	△ 14	△ 17	△ 11	3	△ 8
卸売・小売業	△ 12	△ 12	△ 16	△ 6	△ 47	2	12	8	△ 2	5	10	△ 9	△ 9
運輸業	△ 55	△ 20	△ 16	△ 4	△ 30	7	4	0	△ 18	10	△ 7	△ 20	△ 10
サービス業	△ 44	△ 16	△ 30	△ 11	△ 21	0	9	10	12	19	17	9	10

4 各種経済指標



(右軸：来道者数のみ前々年同期比、その他は前年同期比(差)：%)